

# 滋賀県内の労働災害発生状況

平成25年4月  
滋賀労働局

## 死傷災害は3年連続で増加！！

～前年比で113人（8.4%）増加～

### 1. 概況

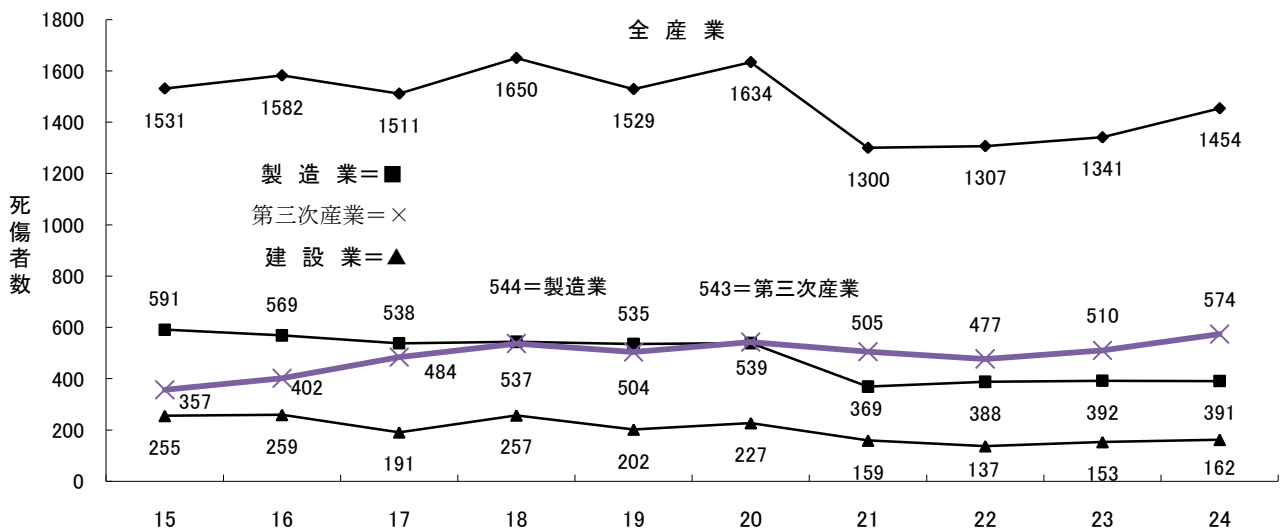
#### ① 災害発生状況

滋賀県内の労働災害による休業4日以上（以下「休業4日以上」）の死傷者数は、第1図に示すように、前年及び前々年に引き続いて3年連続で増加となった。

平成24年の休業4日以上（以下「休業4日以上」）の死傷者数は、全産業で1,454人となり、前年に比べ113人（+8.4%）の増加となった。

業種毎の内訳では、製造業が391人（前年比-0.3%）で前年並みのほか、運輸交通業が178人（前年比+4.7%）、建設業が162人（前年比+5.9%）と軒並み増加しており、更に、第三次産業（交通運輸業及び貨物取扱業を除く。以下同じ。）は574人（前年比+12.5%）と顕著な増加の動きを示している。

<第1図> 休業4日以上（以下「休業4日以上」）の死傷者数の推移

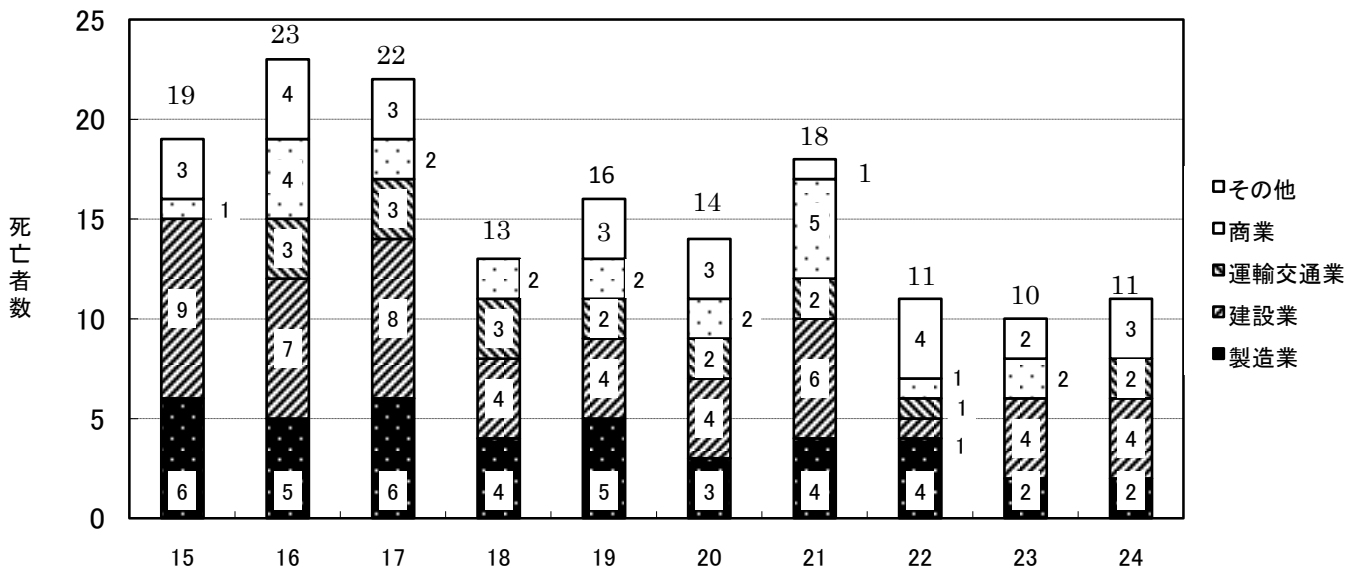


#### ② 死亡災害発生状況

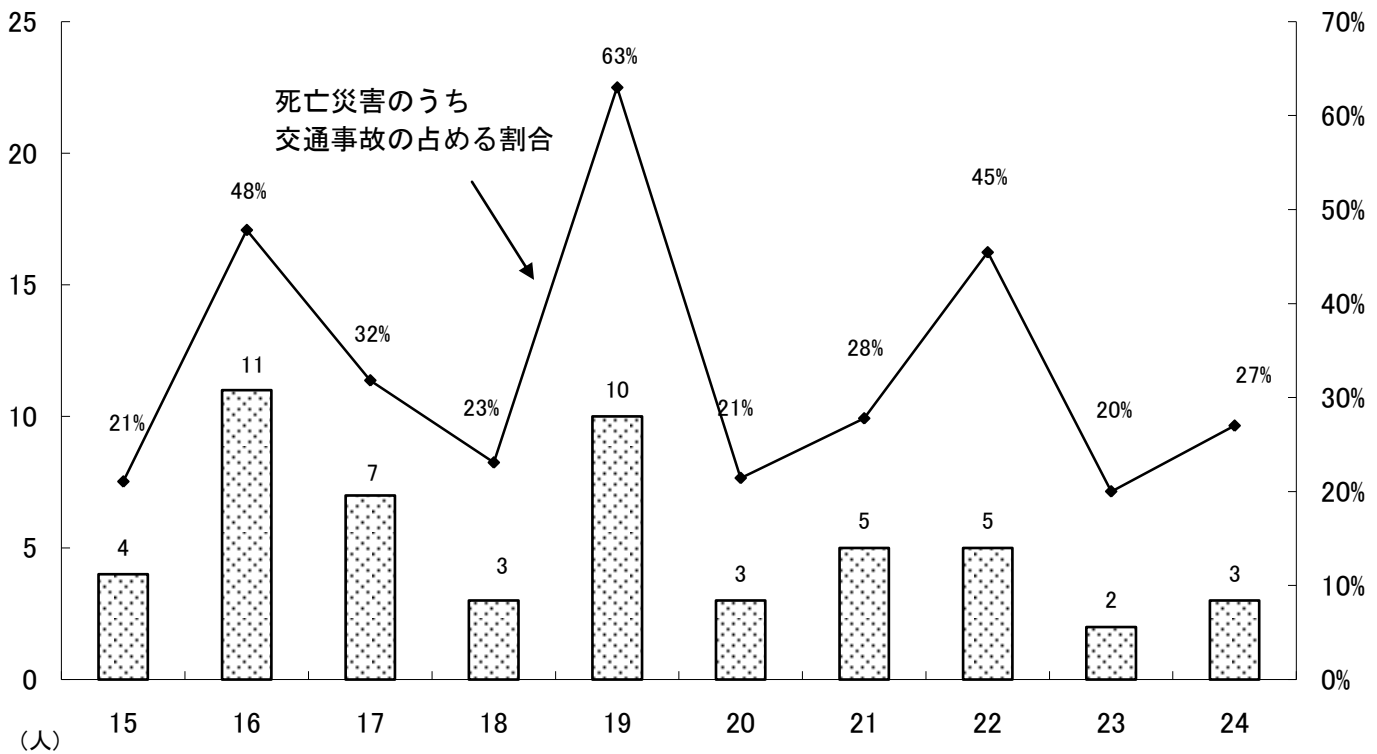
死亡災害は第2図に示すように、ここ数年は増減を繰り返しており、平成24年は11人で、前年に比べ1人増加した。

交通事故による死亡者数は、第3図に示すとおり3人で、前年比で増加に転じた。

<第2図> 死亡者数の推移



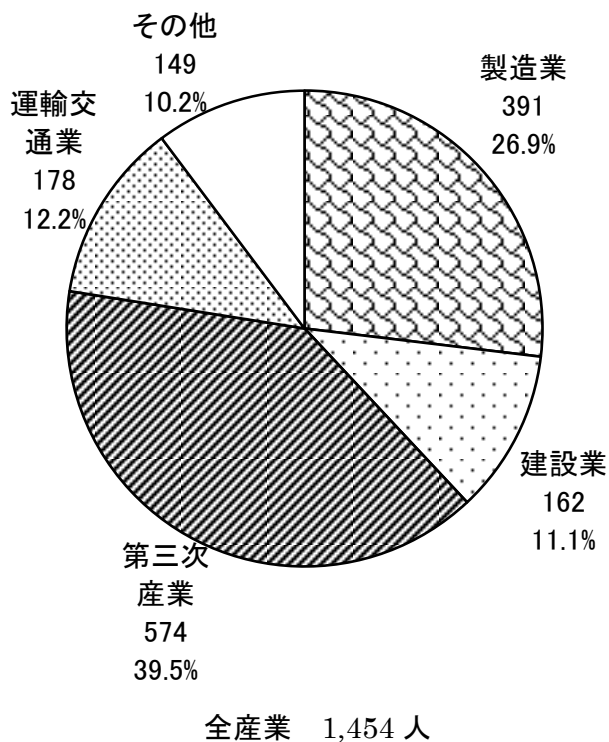
<第3図> 交通事故による死亡者数の推移



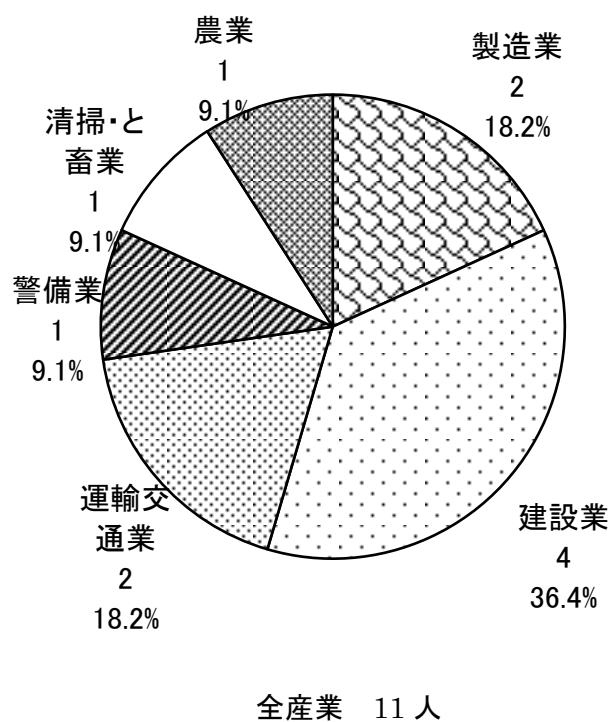
2. 業種別の発生状況 (平成24年)

- ① 休業4日以上死傷者数は、第4図に示すように第三次産業の占める割合が39.5%と最も高く、次いで製造業(26.9%)、運輸交通業(12.2%)、建設業(11.1%)の順になっている。  
第三次産業の内訳は、574人中、商業(194人)、接客娯楽業(105人)、社会福祉施設(94人)、清掃業(67人)となっている。
- ② 死亡者数は、第2図及び第5図に示すように、建設業が4人及び製造業が2人で前年と同数であったほか、運輸交通業が前年の0人から2人に増加した。

<第4図> 業種別死傷災害



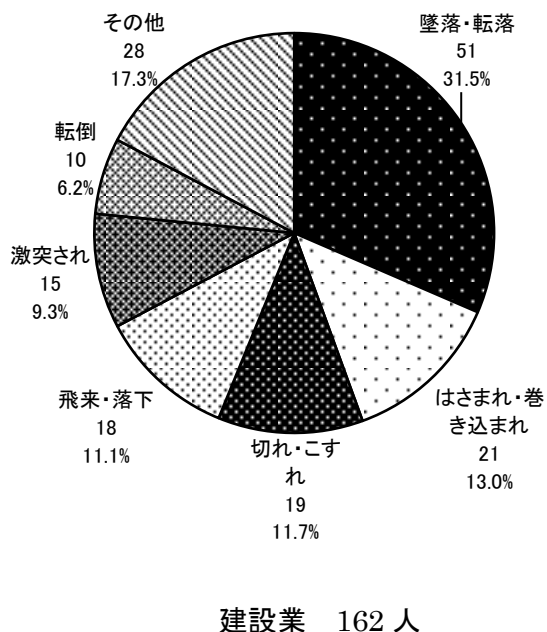
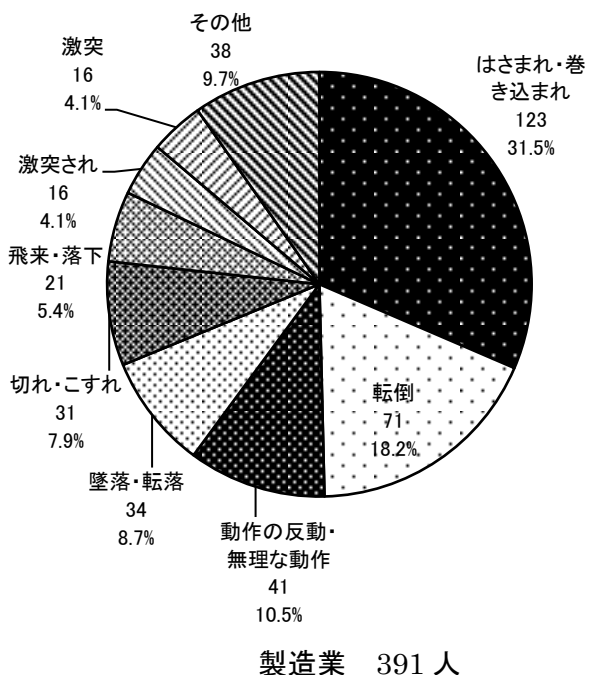
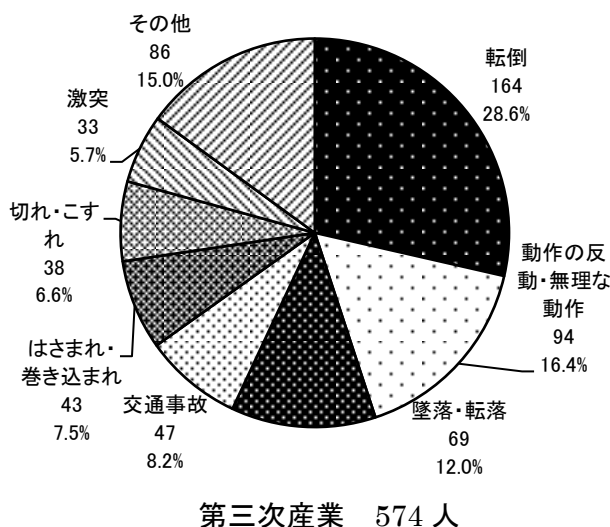
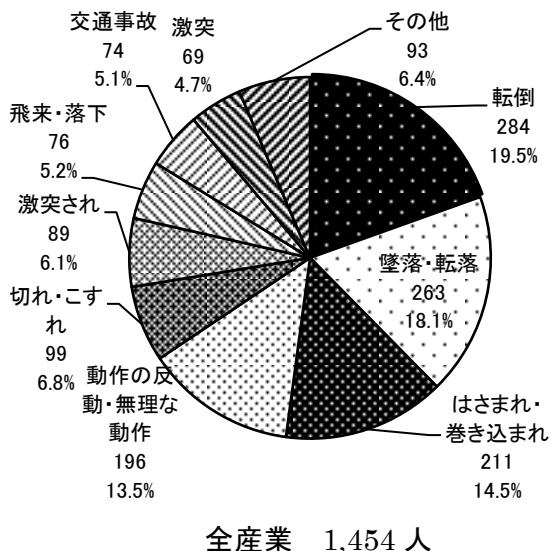
<第5図> 業種別死亡災害



### 3. 事故の型別の状況（平成24年）

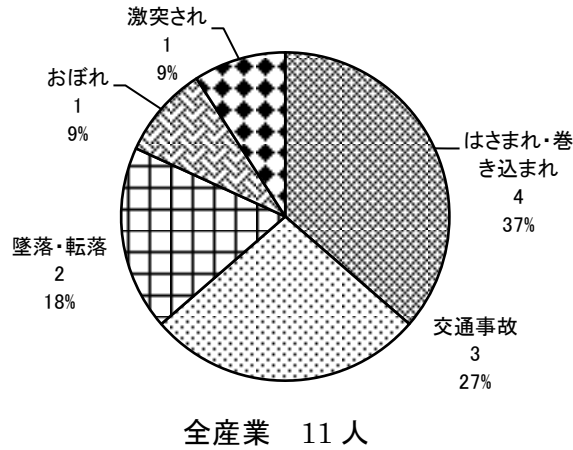
- ① 死傷者数を事故の型別で見ると、第6図に示すように「転倒」が19.5%と最も多く、次いで「墜落・転落」が18.1%「はさまれ・巻き込まれ」が14.5%、の順で発生している。
- ② 事故の型別の死傷者数を業種別にみると、第三次産業では「転倒」が28.6%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が16.4%、「墜落・転落」が12.0%の順で発生している  
 製造業では「はさまれ・巻き込まれ」が31.5%と最も多く、次いで「転倒」が18.2%、「動作の反動・無理な動作」が10.5%の順で発生している。  
 また、建設業においては「墜落・転落」が31.5%と最も多く、次いで「はさまれ・巻き込まれ」が13.0%、「切れ・こすれ」が11.7%の順で発生している。

＜第6図＞ 事故の型別死傷災害



- ③ 死亡災害の事故の型別では、第7図に示すように全数11人の内、「はさまれ・巻き込まれ」が4人、「交通事故」が3人、「墜落・転落」が2人、「おぼれ」及び「激突され」が1人ずつ発生している。

<第7図> 事故の型別死亡災害

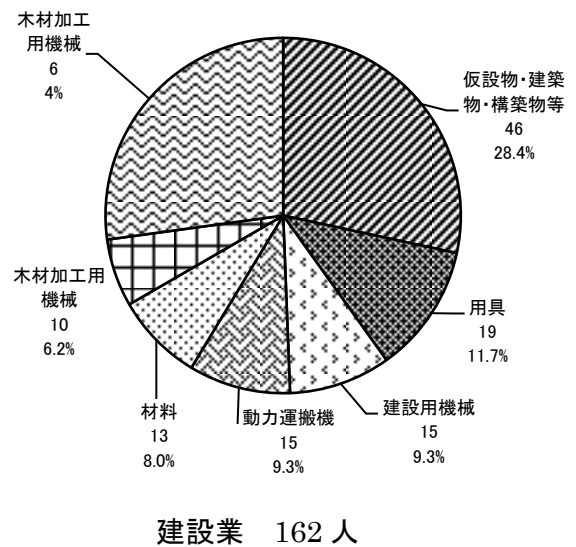
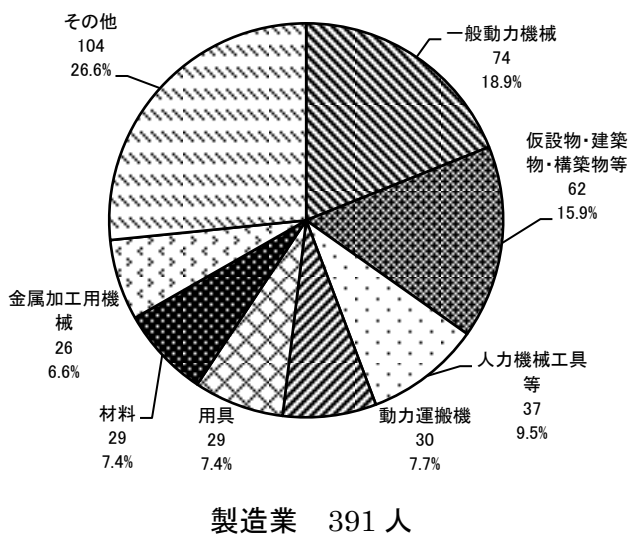
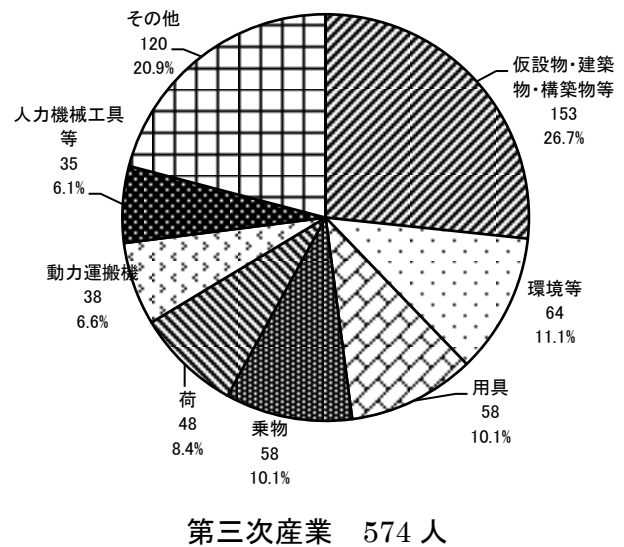
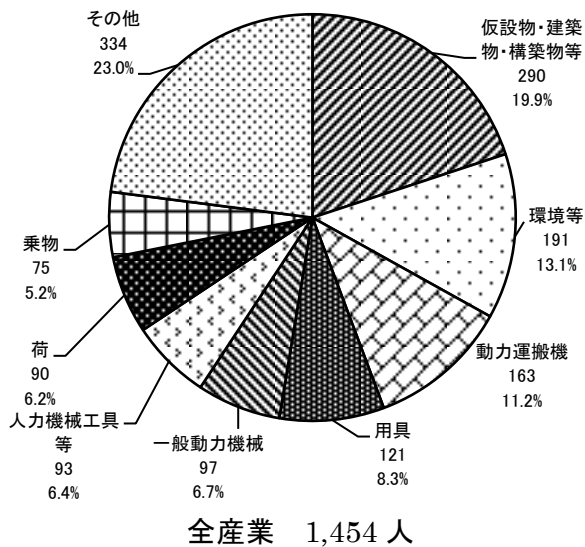


4. 起因物別の状況（平成24年）

死傷者数を起因物別で見ると、第8図に示すように「仮設物・建築物・構築物等」が最も多く19.9%を占めている。

第三次産業では「仮設物・建築物・構築物等」（26.7%）が、製造業では「一般動力機械」（18.9%）が、建設業では「仮設物・建築物・構築物等」（28.4%）が、それぞれ各業種における起因物の内訳で最も多くの割合を占めている。

<第8図> 起因物別死傷災害



\*各統計は、「労働者死傷病報告」の集計結果に基づく。